

♪♪♪ 宗次ホールおすすめ公演情報 2016年5月 ♪♪♪

チケットのご予約は 宗次ホール チケットセンターへ 052-265-1718(営業時間10:00-18:00)

さわやかで気持ちの良い季節になりましたね！ゴールデンウィーク中も毎日公演開催、今月も合計34公演で皆様をお待ちしております。そして6月末期限のプレゼントチケットをまだお手元にお持ちのお客様、5月のコンサートにぜひご利用くださいね♪
(文責:宗次ホール企画担当 廣田政子)

重要性に気付き始め、最終的には音符の背後に隠された意味をつかむことが出来て初めて、作曲家が表現したかった境地にたどり着ける」と言葉を選んでお話されています。

優雅ではなく、美しい世界… 吉田 恭子 ヴァイオリンリサイタル

5月15日(日)14:00開演 4,000円 [指定]



8日の島田真千子さん(別紙読み物をご覧ください)リサイタルの1週間後には吉田恭子さん! 贅沢な日曜日が続きます。吉田さんは3月23日にニューアルバムをリリースされたばかりで、今回のリサイタルもそのアルバムに収録された珠玉の名作たちから数曲、そしてプロコフィエフのヴァイオリンソナタ第1番などを披露していただきます。

“ヴァイオリンという楽器を知り尽くした者にしか表現できない、優雅ではなく、美しい世界”と彼女が語る今回のプログラム。ウィルヘルミヤクライスラーという往年の巨匠たちが自らの超絶技巧を魅せるために手がけた編曲作品が並びます。

近年は若い子供達への教育にも力を入れている吉田さん。弦楽器のための作品は誰かと共に演奏し、一緒に作り上げていくものが多いことから、“周りの音を聴く力や、言葉では言い表せない、人とのコミュニケーション能力がとても重要”。とお話されていました。そして誰かと一緒に笑ったり食事をしたり…という感覚や喜び、そして多くの作曲家がインスピレーションを受けている自然の美しさを楽しむことも大切だと仰います。そんな彼女の美学がぎゅーと詰まった演奏会になりそうです。チャリティーシートは既に完売ですが、お席はまだございます! お早目に♪



←ポストンの若尾さん宅にて
ブルグ氏と若尾氏
(若尾さんブログより)

一方、ポストン響で準首席奏者として25年間活躍する若尾氏の元にも、勉強したいという日本人留学生がたくさん渡米しています。既にキャリアを築いた音楽家である若尾さんが中学生の頃からの夢だった、とブルグ氏にレッスンを受けに行くのだからますます。「あのレッスンを思い出すだけで興奮が蘇る。50歳を越えて、また素晴らしい生涯の師に出会えた」とお話されています。

今回は名手二人に、愛知県ご出身でアルゲリッチ国際コンクール優勝など国内外で活躍するピアニストの広瀬悦子さんと、現在東京フィル首席奏者としてご活躍され、先日は「報道ステーション」で披露された生演奏が話題になったヴィオラの須田祥子さんをお迎えしての公演です。大変貴重な演奏会です。ぜひ、巨匠の実演に触れてみてください!

お得なスイーツタイムコンサート!

(料金・時間は一律です)

13:30開演 2,000円 自由席 ※終演15:00予定

プレゼントチケット(ギフト券セット購入のおまけ等)2枚で入場可能

★チャリティーシート(指定席)AB列中央付近23席限定

スイーツタイムコンサートは、これからクラシック音楽をじっくり聴いてみたいなあという方、夜は出かけづらいので昼間に本格的な演奏を楽しみたいなあという方にぴったり。国際的にも活躍するベテラン演奏家から気鋭の若手までが登場。みな2,000円ではお得すぎるほどの素晴らしい演奏家たちです。ご期待下さい!

オーボエの神が宗次ホールへ!! モーリス・ブルグノ若尾 圭介 オーボエ 須田 祥子 ヴィオラ/広瀬 悦子 ピアノ

5月30日(月)18:45開演 4,500円(学生2,700円)[指定]



モーリス・ブルグ、フランスが生んだオーボエの神様が宗次ホールで初来演です! オーボエ界でこの方の名前を知らない人は恐らくいないでしょう。ホリガーと並ぶ世界的名手、そしてフランソワ・ルルー、アルブレヒト・マイヤーといった今世界で活躍するオーボエ奏者の多くがブルグ氏に師事しています。3年に一度軽井沢で開催される国際オーボエコンクールで審査員を務めておられるブルグ氏。9歳の頃にラジオでオーボエ演奏を偶然聴き、“心がその音のとりになった”そう。今年77歳になる巨匠は、“年を重ねるほど演奏から無駄なもののがぎ取られてきた”と。「音符そのものにばかり気を取られていた若い頃と変わり、次第に音符と音符の間に在る意味の

シフ、プレトニョフと並ぶ名手、仏芸術文化勲章受賞者 5月20日(金)パスカル・ドウヴァイヨン ピアノ



昨年は夫人である村田理夏子さんのピアノデュオコンサートでスイーツタイムにご出演頂いたドウヴァイヨン氏。今回はソロコンサートです! チラシのためにプログラムをコース料理に例えたオシャレなメッセージをくださったドウヴァイヨンさんですが、この日本で20年ぶりとなるソロステージに対する並々ならぬ意気込みが、その選曲から感じられます。繊細さと響きのコントロールで魅せるドビュッシーの前奏曲に始まり、シューベルト自身が弾きこなせず、「こんな曲は悪魔にでも弾かせろ!」と言ったという難曲「さすらい人幻想曲」、そしてラストにはリストが残した唯一のピアノソナタ。その怒涛の勢い、感情、悪魔的魅惑、壮大なロマンティズムがラストまで駆け抜けます。スイーツタイムにしては豪華すぎるプログラムだと思いませんか?

受賞歴華々しい名手でありながら、クラシの笑顔には人懐っこそう
で温厚なお人柄が溢れ出ているようです。「私は前世は日本人だ
ったんだよ」と仰るほどの日本通で、和食と日本酒に目がなく、勤勉
さと人の和を大切に、大変謙虚な方。以前お見かけしたときは、
「吉田かばん」を斜めに下げて、大変礼儀正しい紳士だったことをよく
覚えています。

数々の華やかな受賞歴があるといえども、クラシックの演奏家とし
て常に一線に立ち、有名音楽院などで教鞭をとるといのは並大抵
のことではありません。自分に自信を失いかけたとき、演奏をする喜
びまで失ってしまわないよう、彼は「人間の成長の手段のひとつとし
て音楽があるんだ。」と再認識し、前に進む努力をしたといいます。

最後にフランスのピアノについて語ったドウヴァイオン氏の言
葉から。「ドビュッシーは、撫でるような柔らかなタッチが必要。ラヴ
ェルが石版画とすればドビュッシーは水彩画でしょうか。…ドイツで
は構成や分析が重要視されますが、フランスでは音楽をどのように
楽しめるか、生かすかというインスピレーションが大切にされます。
私はその両方のバランスをうまくとりたい」そのバランスの匙加減も、
すべて彼のセンスの成せる技でしょう。待ちきれない演奏会です！

欧米で活躍する知られざる名手！

5月31日(火) 橋本 京子 ピアノ



前述のモーリス・ブルグ氏を始め、
ミッシェル・マイスキー氏や今井信子
氏など、錚々たる顔ぶれと共演を重
ねてきた知られざる名ピアニスト、
橋本京子さん。先のショパン国際コ
ンクールで第2位及びソナタ賞を受
賞し話題となったカナダのシャルル
・リシャール＝アムラン君は橋本さん
が教鞭を執るカナダの名門校マギル
大学卒であり、彼は橋本氏に室内
楽を師事していました。

これまでの演奏活動は25カ国、小
林愛実さんや先日浜松国際コンク
ールで優勝したガジェヴ氏も過去フ
ァイナリストに残って話題になった
ジーナ・バックウアー国際ピアノコ
ンクールで審査員を務めていらっ
やいます。

1978年以来、長きにわたり欧米で活躍してきた演奏家なので、日
本での演奏会はもはや「来日」という感覚だそう。78年といえば38
年前…国外に移住や旅行する日本人も今程多くなく、インターネット
等で簡単に情報も入らなかった時代。そんな時代に一人で欧米へ
渡り、何十年にも渡ってオランダ、カナダ、チェコやポーランドとい
った国々で演奏家として活躍し、教鞭を執り、生き抜いていくという
のは並大抵ではありません。彼女の演奏にはそんな強さを感じます。
強い意志の間に垣間見えるからこそ引き立つ、やさしさ。

今回はモーツァルトの幻想曲ハ短調に、「ぶらあほ」でも「各曲の
描き分けが見事…」と大絶賛されたブラームス16のワルツ、最後は
シューベルトの即興曲集D935全4曲という精神性深い作品群を聴か
せてくださいます。

大人気！大人の音楽学校シリーズ

5月14日(土) 青年モーツァルト 愛と絶望の日々

松本 大輔(お話) 五島 史誉(ピアノ) 成田 七香(ソプラノ)
西岡 あかね(フルート) 平光 真彌(ヴァイオリン)
新谷 歌(ヴィオラ) 高橋 弘治(チェロ)

「新しい喜びは、新しい苦痛をもたらす」…モーツァルトの言葉で
すが、今回の大人の音楽学校シリーズでは、モーツァルト1777年か
らの旅と苦悩の日々に焦点をあて、その間に生み出された名曲たち
をお聴き頂きながら、天才の人生をわかりやすく学んで頂きます。

ザルツブルクに見切りをつけ、活躍の場を求めて母と旅立った西
方の地。結果的にはどこにも相手にしてもらえず、パリで最愛の母
を失います。「旅をしない音楽家は不幸だ」…これも有名なモーツ

ルトの言葉ですが、たくさんの人や言語、芸術に触れ、それは彼の感
性にも大きな影響を与えたはず。その一方で辛い出来事に見舞わ
れるたび、彼は何を考えていたのでしょうか。



音楽の教科書ではむずかしく思
えた内容を、この音楽学校シリー
ズではとてもたのしく学ぶことが
できると毎回大好評です。天才もひとり
の人間で、さまざまなことに頭を悩
ませ、苦悩の日々を送っていたこと
を知らば、その作品を聴くときも更
に興味深くなるはず。「ともあれ、
われわれはここからまだ何かを学
び取ることが出来る！」…(モーツ
ァルト)我々が天才の生きた道から

学べることは何でしょうか。チャリティーシートは既に完売、自由席
も残り僅かとなってきました！どうぞお早目に！

腹をくくった第一線プレイヤー達

5月23日(月) 関西弦楽四重奏団

林 七奈 ヴァイオリン(大阪交響楽団コンサートマスター)
田村 安祐美 ヴァイオリン(元大阪交響楽団コンサートマスター)
小峰 航一 ヴィオラ(京都市交響楽団首席奏者)
上森 祥平 チェロ(京都府文化賞奨励賞受賞)



ソリストやコンサートマス
ターとしてそれぞれに第一線
で活躍する奏者が溢れんば
かりの情熱をもって京都の
“カフェ・モンタージュ”を拠
点に結成されたのが2012年。
日経新聞によると、なんでも
このカフェ、毎月10日前後飲
食を楽しみながらクラシック
の生演奏が楽しめるというこ
とで、この関西弦楽四重奏団
も最初は同店だけで演奏し
ていたけれど、昨年大阪フェ
ニックスホールで公式なデ
ビューを果たして以来、今で

は数々の有名音楽ホールからの出演依頼が絶えないそう。

室内楽の中でも合奏が難しく、また興業的にはなかなか成り立ち
づらい弦楽四重奏。それでも「音楽家として避けて通れない。覚悟は
できている。」と活動費は自腹を切り、理想の室内楽を追究する4人
(大阪日日新聞より)。その情熱と確かな技術で2014年大阪文化祭賞
奨励賞、翌年には「咲くやこの花賞」受賞と、その実力は早くも知れ
渡っています。

今回の公演では、3月に発売さ
れたさされたばかりのデビューCD、
『グラスノフ&ポロディン』から親し
みやすいロシア作品を集めた選曲
で。ヴァイオリンの林さんはなんと
この時車いすを押しての収録だった
そうで、まさに血と汗と涙の結晶。

昨年の大好評に続き、再びの宗
次公演！進化を続ける実力派集団
の演奏、ぜひお聴き逃さないよう♪

「咲くやこの花賞」受賞時の写真→



チケットのご予約・お問い合わせは

宗次ホールチケットセンターへ

☎ 052-265-1718